

令和 6 年度養殖技術ブレイクスルー促進事業（養殖コストの低減）業務概要

1. 目的

養殖用配合飼料高騰の主な要因は主原料である魚粉価格の高騰であり、いかに配合飼料中の魚粉比率を減らすことができるかが配合飼料コスト削減の重要な課題である。そこで魚粉の一部を比較的安価な脱脂ミールワームに置き換え、価格を抑えたブリ用配合飼料の開発を行うことで、養殖業者の負担を軽減し、増産に踏み出すための一助となることを目的とする。

2. 取組概要

脱脂ミールワームを 8 % 配合した飼料と 15% 配合した飼料の 2 種類を試作し、ブリ 2 歳魚（各 3,600 尾）を対象に飼育試験を行い、飼料代などの養殖コストや成長率、身質などについて、通常飼料との比較を行う。

3. 結果

	対象区	試験区（ミールワーム配合割合）	
試験区名	通常飼料区	8%区	15%区
魚粉割合	51%	43%	36%
対象魚・尾数	ブリ 2 歳魚・3,800 尾	ブリ 2 歳魚・各 3,600 尾	
飼育期間	R6.8 月 28 日～R7.3.10 日		
実施場所	上五島町道土井地先（生簀：15m 円形）		
へい死率	2.26%	3.28%	4.00%
肥満度	22.6	22.6	22.5
期間内増重量 ・平均体重	3.28 kg 2.91 kg→6.19 kg	3.22 kg 2.95 kg→6.17 kg	3.09 kg 3.07 kg→6.16 kg
増肉係数	2.51	2.53	2.71
仮定飼料単価	324 円/kg	302 円/kg	293 円/kg
増肉コスト(円/kg)	815 円/kg	763 円/kg	795 円/kg
1 万尾あたり飼料代 (1 万尾×3 kg 増)	24,450 千円	22,890 千円	23,850 千円
想定コスト削減効果 (通常飼料区比)	-	1,560 千円	600 千円

- ・ブリ 1 万尾を 3 kg 増加させる場合、対象区と比較して、8 % 区で 1,560 千円、15% 区で 600 千円削減できる見込みとなった。
- ・成長率について、最終的な重量や肥満度に大きな差は見られなかった。
- ・試験区について、外観や食味の差は見られず、出荷先や消費者からの評価は問題なかった。
- ・2025 年度は、ブリ当歳魚用も含め、ミールワーム配合飼料の商品化を検討する。
ただし、直近ではミールワームの価格優位性が見られないため配合比率と価格は要検討とする。